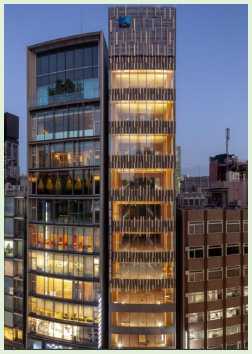
高層木造ビルについて

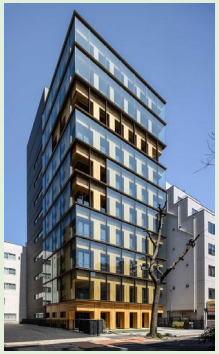
近年、都市部を中心に高層木造ビル※が増えています。

（※　鉄骨造などとの混構造含む）

背景には、高層木造ビルは、
環境や地域や人にやさしい社会の実現に貢献できること、
木造建築に関する技術開発の進展があります。



商業ビル（2021年竣工）
（東京都中央区、12階建て）



研修施設（2022年竣工）
（神奈川県横浜市、11階建て）

オフィスビル（2026年竣工予定）
（東京都中央区、18階建て）

高層木造ビルに注目が集まっている理由

①環境面の効果（カーボンニュートラルへの貢献）

木材は、森林が吸収した炭素を長期間にわたって貯蔵するとともに、他資材に比べて製造や加工に要するエネルギーが少ないため、都市での炭素貯蔵やCO_2排出量の削減に寄与

②森林資源の活用促進、地域経済の活性化

戦後植林された森林資源が本格的な利用期を迎えており、構造に木材を活用する高層木造ビルの建築により、持続的な森林資源の循環利用の促進や、林業・木材産業の振興など山村をはじめとする地域経済の活性化に寄与

③快適な空間の形成に貢献

木材には調湿作用や高い断熱性等に加え、心身面・生産性等に好影響があるとされ、快適で健康的な室内環境等の形成に貢献

技術開発の進展や制度面での後押し

○技術

強度等に優れた建築用木材であるCLT（直交集成板）や木質耐火部材等の技術開発・普及により、高層木造ビルの建築が可能に

○制度

2000年の建築基準法の改正などにより、それまで鉄骨造や鉄筋コンクリート造などでしか建てることができなかった高層ビルを木造で建築することが可能に

CLT（スギ）

木質耐火部材